第四講　マーク式　その2

《評論》テーマ「都市論」

次の文章と図表は、宇杉和夫「路地がまちの記憶をつなぐ」の一部である。これを読んで、後の問い（問１～５）に答えよ。なお、表１、２及び図３については、文章中に「（表１）」などの記載はない。

表１

	近代道路空間計画システム	路地空間システム（近代以前空間システム）
主体	クルマ・交通	人間・生活
背景	欧米近代志向	土着地域性
形成	人工物質・基準標準化	自然性・多様性・手づくり性
構造	機能・合理性・均質性	A機縁物語性・場所性・領域的
空間	B広域空間システム・ヒエラルキー	地域環境システム・固有性
効果	人間条件性・国際普遍性	人間ふれあい性・地域文化継承

近代空間システムと路地空間システム

訪れた都市の内部に触れたと感じるのは、まちの路地に触れたときである。そこには香りがあって、固有で特殊でありながら、かつどこかで体験したことのある記憶がよぎる。西欧の路地は建物と建物のすきまで、さまざまなはみ出しものがなく管理されている。路地と内部空間との結びつきは窓とドアにより単純である。日本の路地は敷地と敷地の間にあり、また建物と建物の間にあり、建物には出窓あり、掃き出し窓あり、縁あり庇あり、塀あり等、多様で複雑である。敷地の中にも建物の中にも路地（土間）はあった。

日本の路地空間には西欧の路地にはない自然性がある。物質としての自然、形成過程としての自然、の２つである。日本の(注1)坪庭を考えてみよう。やはり建物（４つの）に囲まれた坪庭の特徴はそこが砂や石や土と緑の自然の空間である。さらにその閉じた自然は床下を通って建物外部にもつながっている。日本の路地にも、坪庭のように全面的ではないが自然性が継承されている。また路地空間の特徴は、ある数戸が集まった居住建築の中で軒や縁や緑の重なった通行空間であることである。そこは通行空間であるが居住集合のウチの空間であり、その場所は生活境域としてのまとまりがある。ソトの空間から区切られているが通行空間としてつながるこの微妙な空間システムを継承するには物理的な仕組みの継承だけでなく、近隣コミュニティの中に相関的秩序があり、通行者もそれに対応で

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

表２

	地形と集落の路地			
	低地の路地	台地の路地	地形の縁・境界	丘陵・山と路地
非区画型路地 （オモテウラ型） （クルドサック型）	水路と自由型	トオリとウラ道	山辺路地・崖縁路地 崖（堤）下路地・階段路地 行き当たり封鎖	丘上集 崖上路地 景観と眺望
区画内型路地 （パッケージ型）	条理区画 条坊区画 近世町家区画 耕地整理 土地区画整理	条理区画 条坊区画 近世町家区画 耕地整理 土地区画整理		

きているシステムがある。

現在、近代に欧米から移入され、日本の近代の中で形成されてきた都市空間・建築空間システムが環境システムと併せて改めて問われている。しかし日本にもち込まれた近代は、明治開国まではその多くは東南アジア、東アジアで変質した近代西欧文化で融和性もあった。明治に至って急速な欧米文化導入の後の日本の近代の空間計画を見れば、路地空間、路地的空間システムは常に、大枠として近代の空間システムと対照的位置にあることが理解できる。近代の空間計画の特徴を産業技術発展と都市化と近代社会形成の主要３点についてあげれば、その対照に路地空間の特徴をあげることは容易である。すなわち、路地的空間、路地的空間システムについて検討することは近代空間システムとは異なる地域に継承されてきた空間システムについて肯定的に検討することになる。

路地の形成とは記憶・持続である

路地的空間について述べる基本的な視座に、「道」「道路」の視座と「居住空間」の視座があり、どちらか片方を省くことはできない。道・道路は環境・居住空間の基本的な要素である。その環境・都市は人間を総体的に規定し、文化も個も環境の中から生まれてきた。行動を制約してしまう環境としての住宅と都市、その正しい環境、理想環境とは何かをどう問いかけるか。これが西欧の都市は古代以来明確であった。都市は神の秩序で、神と同じ形姿をもつ人間だけが自然の姿と都市の姿を生活空間として描くことができた。

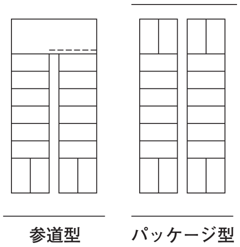
これに対し、日本とアジアの都市の基本的性質である「非西欧都市」の形成を近代以前と近代に分けて、その形成経過を次の世代にどう説明・継承するのか、すなわちどう持続させていくのかが重要である。そして体験空間の形成・記憶の継承と路地的空間の持続はこの大事な現在の問題の骨格になり続けるものと考えることができる。この根本的な次元では現在の区画化された市街地形成のモデル

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

図１

◎参道型路地的空間
東京・神田の小祠（しょうし）には、その手前の街区に参道型路地的空間が発見できた

図２



◎参道型路地空間とパッケージ型路地空間
月島の通り抜け路地は典型的なパッケージ型路地である

だけでなく、その形成過程の記憶、原風景をも計画対象とすることが必要になっている。元来、日本の自然環境（自然景観）はアジアが共有する自然信仰の認識的な秩序の中にあった。日本のムラとマチは西欧と異なり、環境としての自然と一体的であり連続的関係であったのである。具体的には、周囲の（中心である）山と海に生活空間が深く結びついていた。結果として、路地は地形に深く結びついて継承されてきた。

　まず、日本の道空間の原型・原風景は区画された街区にはないことを指摘したい。また「すべての道はローマに通ず」といわれ、ローマから拡大延長された西欧の道路空間と、日本の道空間は異なる。目的到着点をもつ参道型空間が基本であり、地域内の参道空間から折れ曲がって分かれ、より広域の参道空間に結びつく形式で、西欧の（注２）グリッド形式、放射形式の道路とは異なる（**図１**）。多くの日本のまちはこの参道空間の両側の店と住居とその裏側の空間からなり、その間に路地がある。これは城下町にも組み込まれてすきまとしての路地があるゆえに連続的、持続的であったと考えられるわけである。それによって面的に広がった計画的区画にある路地は同様のものが繰り返し連続するパッケージ型路地として前者の参道型路地、（注３）クルドサック型路地と区分できる（**図２**）。

図３

◎東京・江東区の街区形成と通り
自動車交通、駐車スペースにならずガランとした通りもある

　この区画方形のグリッドの原型・原風景はどこか。ニューヨークはそのグリッド街路の原型をギリシャ都市に求め、近代世界の中心都市を目指した。アジアの都市にはそれとは異なる別の源流がある。日本の都市はこの区画街区に限らず、アジアの源流と欧米の源流の重複的形式の空間形成になっている。日本の路地は計画的な区画整形の中にあっても、そこに自然尊重の立場が基本にあり、その基盤となってきた。

　日本にも西欧にも街区形式の歴史と継承がある。東京にも江戸から継承された街区がある。江東区の方形整形街区方式は（注４）掘割とともに形成された。自由型の水路に沿った路地と同様、区画整形街区も水面に沿った路地と

© RECRUIT

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

図４

◎東京・江東区の街区の中の路地区画整理街区にも路地的空間がまちの特性をつくっている

図５

◎東京・墨田区向島の通り向島の通り空間はカーブしてまちの特性となっている

接して形成されてきた。この方形形式は震災復興区画整理事業でも、戦災後の復興計画でも継続された。ここは近代の、整形を基本とする市街地整備の典型となるものである。しかし、そこに理想とした成果・持続が確認できるであろうか（**図４**）。

東京の魅力ある市街地としては地形の複雑な山の手に評価がある。山の手では否応なく地形、自然が関連する。しかし区画整形の歴史がある江東区では、計画が機能的・経済的に短絡されてきた。その中で自然とのつながりをもつ居住区形成には、水面水路との計画的な配慮が必要だった。単に区画整形するだけでは魅力ある住宅市街地は形成されない。その計画的な配慮とは、第１に地区街区の歴史的な空間の記憶を人間スケールの空間にして継承する努力である。体験されてきた空間を誇りをもって継承する意思である。路地的空間の継承である。これらを合理的空間基準が変革対象としてきたことに問題がある。この新区画街区の傍らに、水資源活用から立地した工場敷地跡地が、水辺のオープンスペースと高層居住の眺望・景観を売りものに再開発されれば、住宅需要者の希望は超高層マンションに向かい、街区中層マンションが停滞するのは当然のことである。

この２タイプに対して、向島地区の路地的空間は街区型でもなく、開放高層居住空間でもなく、自然形成農道等からなる地域継承空間システムの文脈の中にある（**図５**）。そしてそこでもまた居住者の評価が高まってきている。本来、地域に継承されてきた空間システムであれば、それは計画検討課題になり、結果がよければビジョンの核にもなるものであった。ところが現実には、地域の継承空間システムは居住者の持続的居住欲求によって残り、また地域の原風景に対する一般人の希求・要求によって、結果として継承に至ったものが多く、計画的にはあくまで変革すべき対象であった経過がある。計画とはあくまで欧米空間への追随であった。また、この地域継承の路地空間システム居住地区においても駅前や北側背後に水面をもつ地区において高層マンションも含む再開発が進行している。しかし、この再開発も[注５]ル・コルビュジエの高層地区提案のように、地区を全面的に変革するものではなく、路地的空間との関係こそが計画のテーマとなる方法論が必要である。

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

路地的空間をもつ低層居住地区にするか、外部開放空間をもつ高層居住地区にするかといった二者択一ではなく、地域・地区の中で両空間モデルが補完・混成して成立するシステムが残っている。地域の原風景、村の原風景は都市を含めてあらゆる地域コミュニティの原点である。その村（集落）の原風景がほとんど消滅しているが、家並みと路地と共同空間からなる村とまちの原風景は、現在のストックの再建に至った時には、すべての近代空間計画地の再生にあたって、可能性を検討すべきである。都市居住にとっても路地はふれあいと場所の原風景である。近代化の中でこそ路地の原風景に特別の意味があったとすれば、それは日本の近代都市計画を継承する新たな時代の１つの原点にもなるべきものである。

（宇杉和夫他『まち路地再生のデザイン――路地に学ぶ生活空間の再生術』による。なお、一部表記を改めたところがある。）

（注）
1　坪庭――建物に囲まれた小さな庭。
2　グリッド――格子。
3　クルドサック――袋小路。
4　掘割――地面を掘って作った水路。江東区には掘割を埋め立てて道路を整備した箇所がある。
5　ル・コルビュジエ――スイス生まれの建築家（一八八七〜一九六五）。

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問１　文章全体の内容に照らした場合、**表１**の傍線部Ａ・Ｂはそれぞれどのように説明できるか。最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

Ａ　機縁物語性

①　通行空間に緑を配置し、自然の大切さを認識できる環境に優しい構造。
②　生活者のコミュニティが成立し、通行者もそこに参入できる開放的な構造。
③　生活環境としてまとまりがあり、外部と遮断された自立的な構造。
④　ウチとソトの空間に応じて人間関係が変容するような、劇的な構造。
⑤　通行空間から切り離すことで、生活空間の歴史や記憶を継承する構造。

Ｂ　広域空間システム

①　中心都市を基点として拡大延長された合理的空間システム。
②　区画整理されながらも原風景を残した近代的空間システム。
③　近代化以前のアジア的空間と融合した欧米的空間システム。
④　産業技術によって地形を平らに整備した均質的空間システム。
⑤　居住空間を減らして交通空間を優先した機能的空間システム。

問２　**図２**の「パッケージ型」と「参道型」の路地の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

①　パッケージ型の路地とは、近代道路空間計画システムによって区画化された車優先の路地のことであり、参道型の路地とは、アジアの自然信仰に基づいた、手つかずの自然を残した原始的な路地を指す。
②　パッケージ型の路地とは、区画整理された路地が反復的に拡張された路地のことであり、参道型の路地とは、通り抜けできない目的到着点をもち、折れ曲がって持続的に広がる、城下町にあるような路地を指す。
③　パッケージ型の路地とは、ローマのような中心都市から拡大延長され一元化された路地のことであり、参道型の路地とは、祠（ほこら）のような複数の目的到達地点によって独自性を競い合うような日本的な路地を指す。

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④　パッケージ型の路地とは、ギリシャの都市をモデルに発展してきた同心円状の幾何学的路地のことであり、参道型の路地とは、通行空間と居住空間が混然一体となって秩序を失ったアジア的な路地を指す。

⑤　パッケージ型の路地とは、通り抜けできる路地と通り抜けできない路地が繰り返し連続する路地のことであり、参道型の路地とは、他の路地と連続的、持続的に広がる迷路のような路地を指す。

問３　**図3**の江東区の一画は、どのように整備された例として挙げられているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

①　街区の一部を区画整理し、江戸の歴史的な町並みを残しつつ複合的な近代の空間に整備された例。

②　区画整理の歴史的な蓄積を生かし、人間スケールの空間的記憶とその継承を重視して整備された例。

③　江戸から継承された水路を埋め立て、自動車交通に配慮した機能的な近代の空間に整備された例。

④　掘割や水路を大規模に埋め立て、オープンスペースと眺望・景観を売りものにして整備された例。

⑤　複雑な地形が連続している地の利を生かし、江戸期の掘割や水路に沿った区画に整備された例。

問４　「路地空間」・「路地的空間」はどのような生活空間と捉えられるか。文章全体に即したまとめとして適当なものを、次の①～⑥のうちから二つ選べ。

①　自然発生的に区画化された生活空間。

②　地形に基づいて形成された生活空間。

③　大自然の景観を一望できる生活空間。

④　都市とは異なる自然豊かな生活空間。

⑤　通行者の安全性を確保した生活空間。

⑥　土地の記憶を保持している生活空間。

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問５　まちづくりにおける「路地的空間」の長所と短所について、緊急時や災害時の対応の観点を加えて議論した場合、文章全体を踏まえて成り立つ意見はどれか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

①　機能性や合理性を重視する都市の生活にあって、路地的空間は緊急時の対応を可能にする密なコミュニティを形成するという長所がある。一方、そうした生活境域としてのまとまりはしばしば自然信仰的な秩序とともにあるため、近代的な計画に基づいて再現することが難しいという短所がある。

②　日本の路地的空間は欧米の路地とは異なり、自然との共生や人間同士のふれあいを可能にするという長所がある。一方、自然破壊につながるような区画整理を拒否するため、居住空間と通行空間が連続的に広がらず、高齢の単身居住者が多くなり、災害時や緊急時において孤立してしまうという短所がある。

③　豊かな自然や懐かしい風景が残存している路地的空間は、持続的に住みたいと思わせる生活空間であり、相互扶助のコミュニティが形成されやすいという長所がある。一方、計画的な区画整理がなされていないために、災害時には、緊急車両の進入を妨げたり住民の避難を困難にしたりする短所がある。

④　路地的空間には、災害時の避難行動を可能にする機能的な道・道路であるという点で、近代的な都市の街区にはない長所がある。一方、都市居住者にとって路地的空間は地域の原風景としてばかり捉えられがちで、そうした機能性が合理的に評価されたり、活用されたりしにくいという短所がある。

⑤　再開発を行わず近代以前の地域の原風景をとどめる低層住宅の路地的空間は、コミュニティとしての結束力が強く、非常事態においても対処できる長所がある。一方、隣接する欧米近代志向の開放高層居住空間のコミュニティとは、価値観があまりにも異なるために共存できないという短所がある。

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　宇杉和夫＝うすぎ　かずお（一九四六〜）埼玉県生まれ。日大理工学部建築学科卒、同大学院修士課程修了。

語句

路地＝ろじ↓人家の間の狭い道路
土着＝どちゃく↓生まれてその土地に住み着いていること
機縁＝きえん↓きっかけ・機会・契機
普遍＝ふへん↓いつでもどこでもだれにでも当てはまること・ユニバーサル
合理性＝ごうりせい↓理性的計算に基づいていること
縁＝えん↓建物と外部（庭）との接点になる場所・縁側・庭に面した外付きの廊下
コミュニティ↓地域社会・地域共同体・一定の地域に居住して共に暮らしているという意識をもつ人々の集団
融和＝ゆうわ↓溶けて混じり合うこと・仲がいいこと
　cf.宥和（ゆうわ）↓妥協的に相手をゆるして仲良くすること
対照的＝たいしょうてき↓対比的・質的に正反対の性質をもつこと・コントラスト
　cf.対称的↓図形的に正反対・シンメトリ
継承＝けいしょう↓受けつぐこと・伝承
視座＝しざ↓視点・ものの見方・観点
短絡＝たんらく↓単純化すること

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

補完＝ほかん↓足りない部分をおぎなって完全なものにすること
遮断＝しゃだん↓さえぎって分断すること
変容＝へんよう↓内容が変化すること
扶助＝ふじょ↓力をそえること・助けること

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第四講

次の傍線部にあたる漢字を、次の各選択肢から選びなさい。

（ア）文化遺産をケイ承する　①系　②敬　③景　④継　⑤経

（イ）区画に一定の秩ジョがある　①所　②序　③徐　④如　⑤助

（ウ）西欧と日本の対ショウ的文化　①象　②称　③照　④将　⑤性

（エ）放シャ状に道が延びる　①社　②射　③斜　④車　⑤遮

（オ）震災からの復コウ計画　①興　②高　③降　④鋼　⑤耕

（カ）安易で短ラク的な結論　①楽　②落　③烙　④洛　⑤絡

（キ）市民の切なるキ求に応える　①期　②気　③機　④希　⑤喜

（ク）工場跡地の高ソウ建築　①壮　②相　③層　④装　⑤荘

（ケ）足りない点をホ完する　①保　②補　③舗　④穂　⑤歩

（コ）屋上からチョウ望を楽しむ　①調　②兆　③町　④眺　⑤超

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

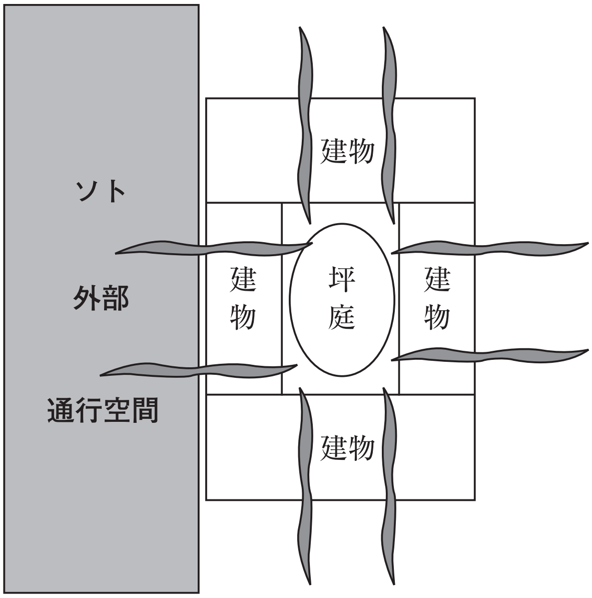
第四講　マーク式　その2

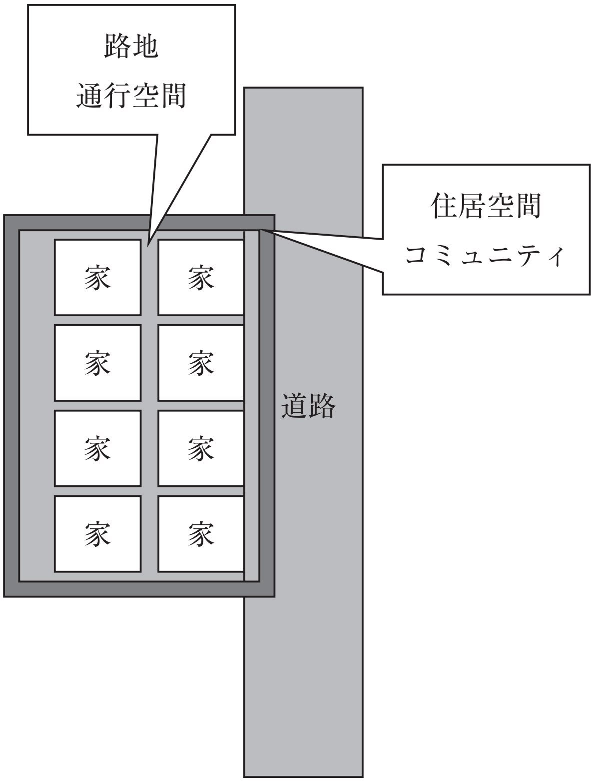
《評論》　テーマ「都市論」

問1《キーワード説明・選択肢》

A　機縁物語性

「機縁物語性」は日本の伝統的な居住空間と路地空間に見られる特性です。ウチに閉じているようでいてソトとつながる開放性ももつという「微妙な」二重性が特徴です。しかも一軒の敷地内の坪庭も数軒が軒を連ねる住宅地も、閉じながら外に開いているのです。図示しました。





© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

あらためて内なるまとまりがありながら外にも開かれているという点で、②「生活者のコミュニティが成立し、通行者もそこに参入できる開放的な構造」が正解です。「機縁」はきっかけや機会という意味です。ウチとソトがつながるきっかけが用意されているということになります。そこで人が出会い、生活の中でドラマ・物語が作られていくととらえることができます。**表1**の言葉を使えば「人間ふれあい性」があり、「土着地域性」が残され、「地域文化継承」が物語のように語り継がれるということでしょう。ともあれ「機縁物語性」は**表1**の中に出てくる言葉ではありますが、本文中では直接は出てきません。その点では従来のセンター試験と傾向の違う問題と言えます。

他を吟味します。①の「通行空間に緑を配置し」は○です。坪庭にも通行空間にも「緑」があったことが第二段落に記されています。しかし、「自然の大切さを認識できる環境に優しい構造」が×です。たしかに本文中にも「自然性」「自然」ということばは出てきますが、これは自然の景観としての緑です。庭に植物を植えたり、鉢植えを街路や家の周りに配置しているという意味です。それを「自然の大切さを認識できる環境に優しい構造」と表現してしまうと〝森や海や生態系を大切に〟というレベルになってしまいます。いわば、小自然が大自然になってしまったという文脈喪失の誤りです。また〝自然は大切⟷自然は大切ではない〟という対比はこの部分にはないと考えれば、正しい対比喪失の誤りと言えます。たしかに、本文後半で、「山と海に生活空間が結びついていた」「自然尊重」という表現は出てきます。しかし、それはムラやマチ全体、路地全体がもともとあった自然と調和したという主旨で出てくるのです。あくまで問1では庭や家の周りレベルです。③は「外部と遮断された」が×です。開かれた、です。記述に反する誤りです。⑤も似た間違いで、「通行空間から切り離す」が×です。④は「ウチとソトの空間に応じて人間関係が変容する」が×です。ウチとソトがつながっているという話なのに、ウチとソトで人間関係が変わるなど、記述に反する誤りです。ウチとソトを比べていないという点では、正しい対比喪失の誤り。さらに「劇的」も×。日本はドラマチックで、欧米近代にドラマはないなどの比較はありません。正しい対比喪失の誤りですね。

B　広域空間システム

「近代道路空間計画システム」、「欧米近代」をモデルとするグループのキーワードです。こちらもAと同様で「広域空間システム」という言葉と直接の説明は本文中にありません。**表1**内の対比関係（路地空間システム＝近代以前空間システムとの対比）

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

と欧米型の言い換えだという方向で考えていく必要があります。

本文中では「『すべての道はローマに通ず』といわれ、ローマから拡大延長された西欧の道路空間と、日本の道空間は異なる」が根拠になります。また**表1**に「合理性」という表現もあることから、①「中心都市を基点として拡大延長された合理的空間システム」が正解です。

他を吟味します。②の「近代的空間システム」は○ですが、「原風景を残した」が×です。これは「近代以前」の方です。「土着地域性」「地域文化継承」の方です。対比混乱の誤りです。③は「欧米的」は○ですが、「近代化以前のアジア的空間と融合」が×です。対比混乱の誤りです。そういう混ざり合いや過去の遺産のようなものを振り払い「基準標準化」「国際普遍性」を目指すのが「広域空間システム」ですから。④は「均質的」は○です。「普遍」とほぼ同じ意味で、いつでもどこでも同じということだからです。一方、「産業技術によって地形を平らに整備」が×です。〝平ら⟷デコボコ〟は比較になっていません。正しい対比喪失の誤りです。⑤は「機能」は○ですが、「居住空間を減らして交通空間を優先」が×です。**表1**によれば、「主体」はたしかに「クルマ・交通」となっていますが、だからといって「居住空間を減ら」すとは限りません。また本文には「路地的空間について述べる基本的な視座に、『道』『道路』の視座と『居住空間』の視座があり」とあるように、ものの見方の対比なのです。あらためて「居住空間を減らして」は記述に反する誤りです。

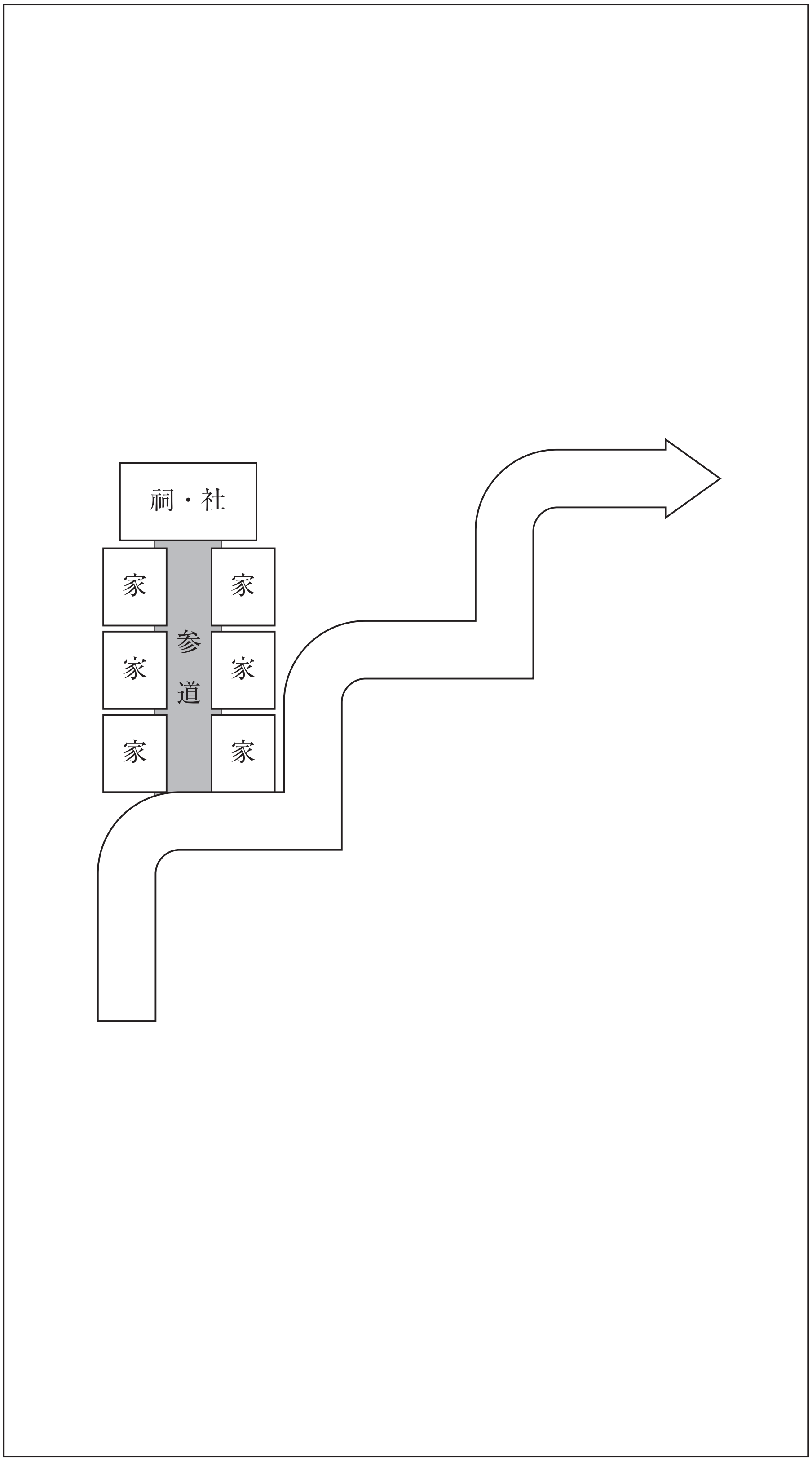
問2《傍線部説明・選択肢》

「パッケージ型」は欧米型、「参道型」は日本の伝統型という対比です。本文によれば「区画された街区」「すべての道はローマに通ず」「ローマから拡大延長された」「グリッド（格子状）形式、放射形式の道路」「同様のものが繰り返し連続するパッケージ型路地」が前者の言い換えになります。一方、後者については「目的到着点をもつ」「地域内の参道空間から折れ曲がって分かれ、より広域の次の参道空間に結びつく形式」「城下町にも組み込まれてすきまとしての路地があるゆえに連続的、持続的」が言い換えキーワード・キーフレーズです。

したがって、②「パッケージ型の路地とは、区画整理された路地が反復的に拡張された路地のことであり、参道型の路地とは、通り抜けできない目的到着点をもち、折れ曲がって持続的に広がる、城下町にあるような路地を指す」が正解です。

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

図示します。



では他を吟味します。①は後半の「アジアの自然信仰に基づいた、手つかずの自然を残した原始的な路地」が×です。「自然尊重」ではありますが、「自然とのつながりをもつ居住区形成」ということです。いわば自然と対話しながら自然と調和しながら人の暮らしの空間を作っていくということです。一切人の手が入っていないということではありません。記述に反する誤りで

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

す。あるいは、問１Aで指摘したように文脈喪失の誤りとも言えます。また本文には何度も「原風景」という表現が出てきますが、「原始的」ということではありません。この点でも記述に反する誤りです。

次は③です。まず「祠のような複数の目的到達地点」が×です。**図１・２**からもわかるように一つの路地的空間には一つの祠・一つの参道と考えられます。記述に反する誤りとも言えますし、〝一元化⟷複数〟という対比ではないという点では正しい対比喪失の誤りです。また「独自性を競い合うような」も×です。まるで〝祠・参道A〟と〝祠・参道B〟が個性を競っているかのようですが、×です。欧米型と伝統日本型の比較、それぞれの独自性という比較はありますが、伝統日本型の中での比較ではありません。正しい対比喪失の誤りです。

では④はどうでしょう。後半の「通行空間と居住空間が混然一体となって秩序を失った」が×です。問１のAでも見たように、通行空間と居住空間がつながっているというだけで、ごちゃごちゃ、どろどろに溶け合っているわけではありません。家の中にクルマが突っ込んでいるわけでもありません。記述に反する誤りです。「秩序を失った」も×です。パッケージ型の秩序があり、参道型には参道型の秩序があるのです。欧米型のガチっとした秩序だけが秩序ではありません。不当な価値判断と言えるでしょう。

最後に⑤はどうでしょう。前半の「通り抜けできる路地と通り抜けできない路地が繰り返し連続する路地」が×です。「通り抜けできない」は参道型のキーワードです。混ぜてはいけません。はい、典型的な対比混乱の誤りです。また「迷路のような」が×です。記述に反する誤りです。

問３《内容説明・選択肢》

江東区については筆者が高く評価しているところと、「短絡」と批判しているところと二種類あります。**図４**が前者プラス評価で、一方、**問３**で問われている図３は後者マイナス評価です。

先にプラス評価については「江戸から継承された街区」として紹介されています。ところが、「江東区の方形整形街区方式は掘割とともに形成された。自由型の水路に沿った路地と同様、区画整形街区も水面に沿った路地と接して形成されてきた」と続きます。ここのあたり、わかりにくいですから、詳しく説明しますよ。「自由型の水路に沿った路地」はプラス評価の方ですが、

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

そこに並ぶように、西欧型のガチっと区画の整った「方形整形街区方式」が「掘割とともに形成」されてしまう。「自由型の水路に沿った路地」と同じように水面に沿っていながら、それに合わせるのではなくガチっと「区画整形街区」にしてしまう。さらに「この方形形式は震災復興区画整理事業でも、戦災後の復興計画でも継続された」。つまり、震災（おそらく関東大震災のことでしょう）や戦災（先の大戦のことでしょう）の復興計画で、江戸以来の原点的路地に戻すような〝復興〟もありえたのに、そうではなくガチっとした「方形形式」が続いてしまった。筆者は「ここは近代の、整形を基本とする市街地整備の典型」と指摘し、さらに「しかし、そこに理想とした成果・持続が確認できるであろうか」と批判しています。

したがって、③「江戸から継承された水路を埋め立て、自動車交通に配慮した機能的な近代の空間に整備された例」が正解です。「したがって」と書きましたが、大学入試センターがこの③を正解として作っているということです。歴史的な水路や路地を変革する区画整理ですから「江戸から継承された水路を埋め立て、自動車交通に配慮した機能的な近代の空間」という表現を導けないわけではありませんが、本文中にはっきりした根拠はあるのか。なんと「掘割」の脚注である「掘割――地面を掘って作った水路。江東区には掘割を埋め立てて道路を整備した箇所がある」が直接の根拠です。しかし……筆者自身のことばではない注釈部分を、文章理解力を問う現代文試験の正答の根拠とするとは、正直言って驚きです。

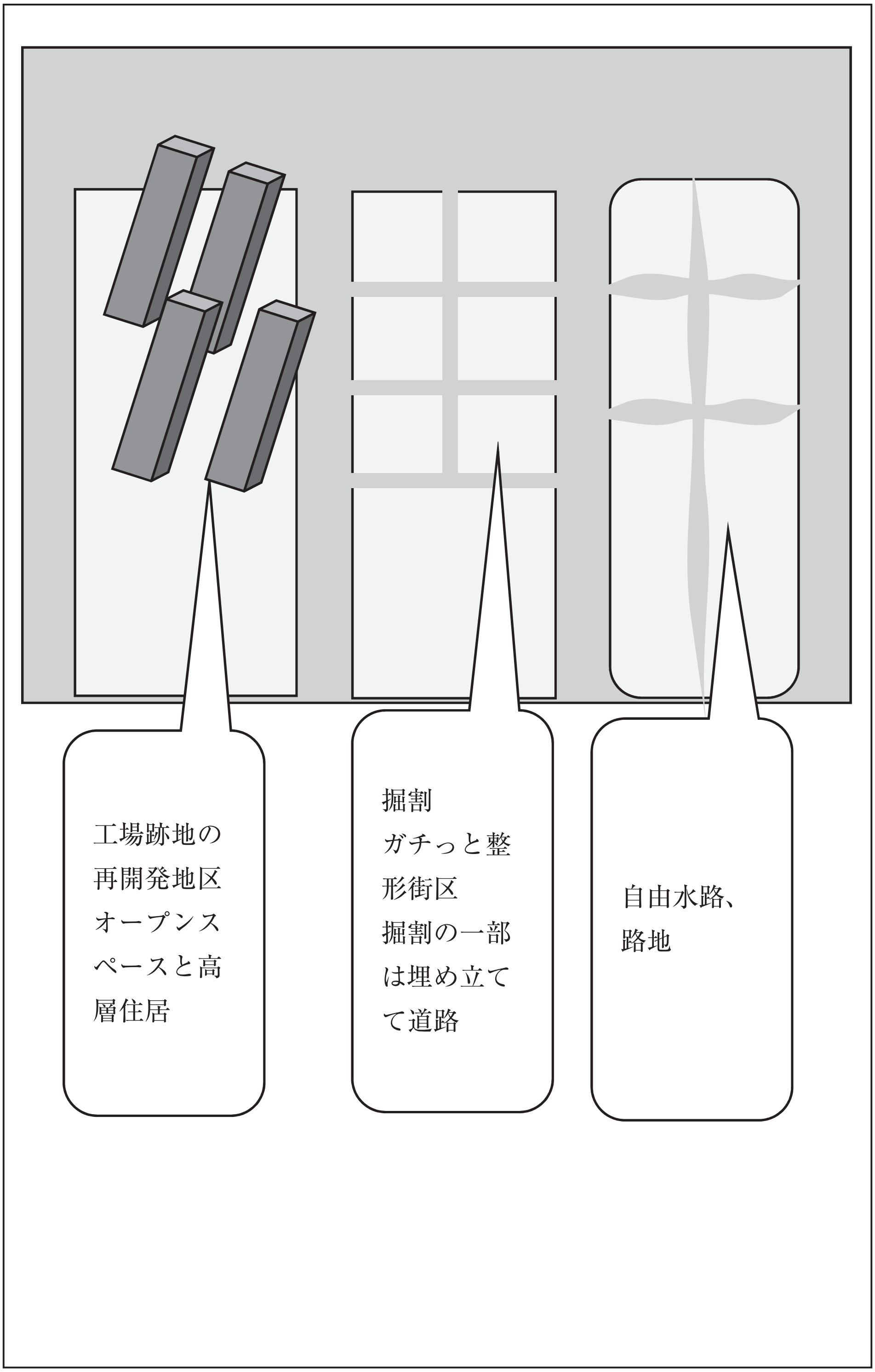
他を吟味します。①の「江戸の歴史的な町並みを残しつつ」が×です。これは筆者によるプラス評価です。対比混乱の誤りです。②の「区画整理の歴史的な蓄積を生かし、人間スケールの空間的記憶とその継承を重視」も同じくプラス側です。そうしたよいものを残していないのが現実ですから「継承を重視」は、記述に反する誤りとも言えます。対比混乱の誤りです。⑤の「江戸期の掘割や水路に沿った区画に整備」も同じ間違い。さらに「複雑な地形が連続している地の利を生かし」は江東区ではなく山の手の話です。しかもプラス評価のところです。この点でも誤り。

④は「オープンスペースと眺望・景観を売りものにして整備された例」が×です。これは、問題になっている「区画整形街区」「方形形式」「新区画街区」の「傍ら」にある工場敷地跡地の再開発地区です。これについても筆者はマイナス評価ではありますが、問題になっている地区のお隣です。図示します。あくまでイメージですが。

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問４《キーワード説明・選択肢・新傾向》

「路地空間」・「路地的空間」は筆者が評価するもともとの自然や地形を生かしたまちづくりで、歴史を継承するものです。し



© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

たがって②「地形に基づいて形成された生活空間」、⑥「土地の記憶を保持している生活空間」が該当します。

他を吟味します。①の「区画化」は欧米的・近代的合理化のグループです。対比混乱の誤りです。また「自然発生的」は記述に反する誤りです。正しくは「自然尊重」「自然とのつながりをもつ」です。③の「大自然の景観を一望できる」も同じように本文の「自然とのつながり」を誤解した間違いです。記述に反する誤りと言っても文脈喪失の誤りと言ってもよいでしょう。さらに「景観を一望」では、工場跡地の再開発地区の高層住居になってしまいます。この点で対比混乱の誤りです。④の「都市とは異なる自然豊かな生活空間」では、ただの田舎や山村のイメージです。そうではなく「自然とのつながり」をもつまちづくりなのです。都市もありなのです。記述に反する誤りです。⑤はどうか。「通行者の安全性」が×です。安全か危険かは対比されていません。正しい対比喪失の誤りです。

問５《キーワード説明・選択肢・新傾向》

問４と同様に、筆者が評価する「路地的空間」に関する問いです。ところが長所ばかりか「短所」も、しかも「緊急時や災害時の対応の観点を加えて議論した場合」の正答を聞いてきています。「文章全体を踏まえて」は当然ですが、「緊急時や災害時の対応の観点を加えて」とあるのが特殊です。そのような観点は本文中にはないからです。本文を踏まえつつ、本文にないことを推測したりすることは、小論文ではよくあることですが、現代文では稀なことです。③「豊かな自然や懐かしい風景が残存している路地的空間は、持続的に住みたいと思わせる生活空間であり、相互扶助のコミュニティが形成されやすいという長所がある。一方、計画的な区画整理がなされていないために、災害時には、緊急車両の進入を妨げたり住民の避難を困難にしたりする短所がある」が正解とされています。「豊かな自然や懐かしい風景が残存している路地的空間は、持続的に住みたいと思わせる生活空間であり、相互扶助のコミュニティが形成されやすいという長所がある。一方、計画的な区画整理がなされていないために」は本文中に直接の根拠があります。残りは書かれたことからの推測です。消去法でも③にたどり着けるとは言え、本文に直接の根拠がないという点で、今後物議をかもすかもしれません。書いてあることを書いてある通りに理解する力を理性と呼ぶならば、書いてあることから書いてないことまで類推する能力は、知性（インテリジェンス）と言えます。インテリジェンスの語源は、ラテン語の「インターレゲレ」で行間を読む、書いてあることから書いてある以上のことを読み取ることです。従来の現代文は

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

理性を問うものでしたが、新テストは知性まで問うということでしょうか。
　他を吟味します。①は「自然信仰的な秩序」が×です。問４でも再三確認したように「自然尊重」「自然とのつながり」です。「自然信仰」ではありません。もちろん「元来」かつてアジア的な自然信仰の秩序の中に日本もあったことは本文にも記されていますが、現代のまちづくりにおいてそのまま継承すべきものではありません。記述に反する誤りです。②は「居住空間と通行空間が連続的に広がらず」が×です。そういう広がりがあるのが路地の特徴です。正反対です。記述に反する誤りです。④は「機能的な道・道路であるという点」が×です。それは「近代的な都市の街区」の特徴ですから、対比混乱の誤りです。また、「都市居住者にとって路地的空間は地域の原風景としてばかり捉えられがち」も×です。むしろそうした原風景が忘れられがちだと筆者は言いたいのです。⑤は「再開発を行わず近代以前の地域の原風景をとどめる低層住宅の路地的空間」が×です。再開発しても地域の記憶・歴史を残すということが重要で、再開発しないということではありません。記述に反する誤りです。

模範解答
問１　A＝②　B＝①　　問２　②　　問３　③　　問４　②・⑥（順不同）　　問５　③

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第四講　模範解答

（ア）④　（イ）②　（ウ）③　（エ）②　（オ）①
（カ）⑤　（キ）④　（ク）③　（ケ）②　（コ）④

解答漢字一覧

（ア）継承　（イ）秩序　（ウ）対照　（エ）放射　（オ）復興
（カ）短絡　（キ）希求　（ク）高層　（ケ）補完　（コ）眺望

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。